



アンネのバラ

# 吉高人権だより

2023年 5月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

「未来人の人権を守るために」

教頭 井原 進一

私は、教師になって約 25 年間、環境化学や生化学を教えてきました。その中で、地球環境問題を解決するために最も重要なことの一つは「未来人の人権を考えること」だということに気がきました。

プラスチックの問題を一例に考えてみましょう。私たちは便利だからといって、多くの場合、プラスチック製品を使い捨てにしています。そしてごみ箱に入れているのに、なぜか海に溜まっています。そして、それを海洋生物や鳥類が餌と間違えて食べてしまうという報告をよく目にします。プラスチック自体に毒性は認められていませんが、野生生物にとって、栄養にならないモノを胃袋に入れて消化させようとすると、無駄なエネルギーを浪費するという粒子毒性という罠にはまってしまう、やがて死に至ります。このことは、人類の生存のためにはではなく、人類の命の質、つまり便利で快適さを追求するために、野生生物の生存権を奪っていると言えます。そのことによって生態系が崩れれば、人類の生存のために必要な食料としての生物がいなくなってしまう、海はプラスチックで溢れ、美しい浜辺の景観も失われることでしょう。このような悪夢は遠い未来のことかもしれませんが、幸か不幸か、現代の私たちはもうこの世に存在していないでしょう。しかし、その代わりに新たな人類が生活しているかもしれません。海や山には食料となるものが欠乏してしまった悲しい地球で、ごみであふれた海の景色を眺めながら。

私たちは便利で快適な生活のために、様々なものを浪費し、様々なものを排出しました。プラスチックだけでなく、核廃棄物やダイオキシンなどの環境ホルモンなども。それらは次世代の人類に負の遺産として残されるのは確実です。その時、劣化した地球環境を私たちによって押し付けられた未来人たちは、過去からの損害に対して、加害者である私たちに訴えるルートを持っていません。なぜなら私たちはもう存在していないのだから。それが想像できる人なら、未来人の人権を守らなければならないことが理解できるはずです。

プラスチック問題を解決する目的は、野生生物の生存権を、そして未来人の人権を守ることなのです。

## 発達障害の特性 ~個性と捉えたほうが良い面も多々ある~

### 自閉スペクトラム症(ASD)

相手の表情を見たり、気持ちを察したり、空気を読んだりすることが苦手(社会性の障害)

#### 自閉症

- コミュニケーションの障害 (会話が一方的で自分の興味・関心事だけ話す。)
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり(興味の偏り、決まったパターンへの固執)

#### アスペルガー症候群

- 知的には標準またはそれ以上
- コミュニケーションの障害はあっても言葉の発達の遅れはない。
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心の偏り
- 言語発達に比べて不器用な場合がある。

### 注意欠陥多動性障害(ADHD)

目標に向かって、うまく行動したり、修正したりするシステムがうまくいっていない。

- 注意の集中が難しい。
- 多動・落ち着きがない。
- 衝動的。思いついたら行動に移してしまう。

### 学習障害(LD)

目や耳から入った情報の処理システムがうまくいっていない。

- 知的には標準又はそれ以上
- 学力の著しい偏り
- (読む・書く・計算するなどの一部が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手)
- 注意集中力や落ち着きがない場合

最近は発達障害という言葉をよく聞くようになりましたが、発達障害とは、病気ではなく、脳の機能の発達に偏りがある状態のことを言います。発達障害には、他人とのコミュニケーションに困難があったり、特定のことへのこだわりが強い自閉スペクトラム症や、注意の集中が難しく、落ち着きがなく衝動的に行動してしまう ADHD、読む・書く・計算するなどの特定の分野の学習に困難がある学習障害などがあります。そういう特徴をもった生徒が自分の周りにもいることを心にとめておいてください。そういう生徒が自分の周りにもいるかもしれないという気持ちでいれば、この子変な子とか、この子むかつくとか思う前に、思いとどまることができるのではないのでしょうか。

いじめや差別、障害といった問題に共通するのは、原因は本人にあるのではなく、周囲の人たちが鍵を握っているということです。いじめや差別をする人は少数でも、周りのひとがそれを見逃せばいじめや差別は解決しません。障害も社会の在り方が障害を作っている面もあります。そういう社会を作っているのは私であり、あなたです。自分たち一人一人がいじめや差別をゆるさない、障害で困っている人を見捨てないような社会をつくっていけるよう心がけていきたいと思えます。